

## 湖南圏域における医療福祉の推進に向けた取組みの経過

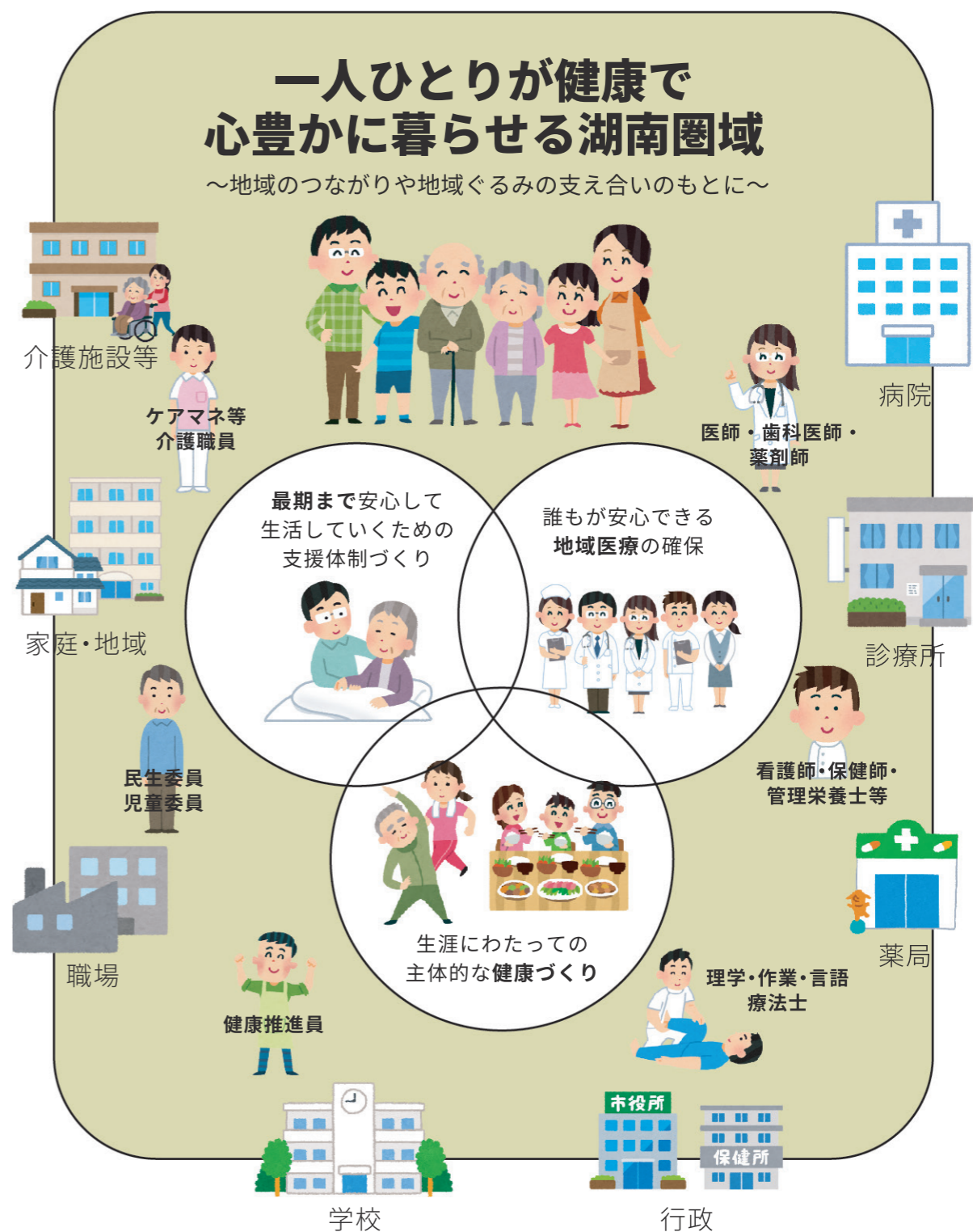
- 平成 21 年 12 月 「滋賀の医療福祉を考える懇話会」最終報告（提言）  
超高齢化社会を迎えるにあたり医療と介護の直面する課題解決に向けて、本県の特性を踏まえ、今後 10 年を展望する独自のビジョンを地域住民の視点で策定。
- 平成 22 年 11 月 「南部地域から医療福祉を考える懇話会」の設置  
地域における、医療福祉の特性、課題、将来像および推進方策について議論・検討する（第 1 回～第 4 回 懇話会の開催）  
  
「南部地域医療福祉ビジョン」（提言）  
一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域を目指して  
～地域のつながりや地域ぐるみの支え合いのもとに～
- 平成 24 年 7 月 「医療福祉を推進する南部地域協議会」の設置  
① 医療福祉の課題等の情報共有  
② 地域の医療福祉施策全体の一体性を確保するための協議、調整  
→「圏域在宅医療福祉推進事業」を活用した「南部地域医療福祉ビジョン」の具体化
- 平成 27 年 1 月 「南部地域 2025 年医療福祉推進体制構築協議会」  
増大する医療・介護需要への対応が重要課題  
→ 地域包括ケアシステムの推進に重点化し、多職種連携、普及啓発等に取り組む
- 平成 29 年度 「南部地域医療福祉ビジョン」（中間）評価事業  
ビジョン策定から 5 年が経過し、策定時からの状況変化や課題解決の状況を検証し、今後の取組みに反映させることを目的として、南部地域 2025 年医療福祉推進体制構築協議会において、ビジョンの中間評価を行なった（数値データおよび取組状況から評価）

平成 30 年度以降は、ビジョンの進行管理を行う協議の場として再編  
・ 圏域内の既存の各分野の会議との連携 ・ 各関係機関・団体間での協働・連携

## 平成 30 年度以降の体制「湖南圏域 2025 年医療福祉推進協議会」（委員推薦団体）

一般社団法人 草津栗東医師会	社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院
一般社団法人 守山野洲医師会	医療法人 周行会 湖南病院
一般社団法人 草津栗東守山野洲歯科医師会	社会福祉法人 びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲
一般社団法人 びわこ薬剤師会	医療法人 財団 御上会 野洲病院
守山野洲薬剤師会	滋賀県保険者協議会（フジテック健康保険組合）
公益社団法人 滋賀県看護協会 第 2 地区支部	滋賀県保険者協議会（全国健康保険協会滋賀支部）
医療法人 徳洲会 近江草津徳洲会病院	滋賀県南部介護サービス事業者協議会
社会医療法人 誠光会 草津総合病院	湖南ブロック介護支援専門員連絡協議会
滋賀県立精神医療センター	滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会 第 2 地区支部
社会福祉法人 びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	健康推進員連絡協議会
医療法人 真心会 南草津野村病院	草津市
医療法人 芙蓉会 南草津病院	守山市
滋賀県立小児保健医療センター	栗東市
滋賀県立総合病院	野洲市
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所）

# 南部地域医療福祉ビジョン （概要版）



平成 30 年（2018 年）3 月  
湖南地域 2025 年医療福祉推進体制構築協議会  
（湖南圏域 2025 年医療福祉推進協議会）

南部地域医療福祉ビジョンが目指す地域の姿：

# 一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる湖南圏域 ~地域のつながりや地域ぐるみの支え合いのもとに~

全国的に人口が減少していく地域が多いなかで、湖南圏域は、今後 20 年は引き続き人口が増加すると推計されている、**数少ない人口増加地域**です。子育て世代も多く、平成 30 年における高齢化率も 21.5%（4 月、国勢調査に基づく県の推計による）と県内では比較的低い状況にあります。病院や診療所の数も県内では比較的多い圏域です。

しかし、**一次救急と二次救急の機能分化**や、特に子育て世代が多い中での**小児救急医療体制**をどのように強化していくかが、大きな課題となっています。

また、高度経済成長期での転入者が多いことから、**10 年後には一気に高齢化が進む**ことも予想されています。医療福祉の問題を高齢期だけの問題としてとらえず、生涯を通じた**予防・健康づくり**を基盤にして、**精神、難病、障害児・者**などにも対応した**地域包括ケアの深化・推進**に向け、**地域が一丸となって取組みを進める**必要があります。



基本目標

1

## 生涯にわたっての主体的な健康づくりの推進

バランスのよい食・運動習慣の定着を図り、生活習慣病をはじめとする疾病予防対策を進めるなど、子どもから高齢者まで一人ひとりの一体的な健康増進に向けた取組みを推進します。

- ① 健康づくり活動への支援の充実
- ② 健康診断や相談体制の充実
- ③ 地域職域連携の支援の充実

中間評価で確認された**今後の取組み**

- ◆ 住民が楽しみながら主体的・継続的に取り組むことができる環境づくり
- ◆ 働き盛り世代に向けた取組み（特に糖尿病予防・重症化予防）



基本目標

2

## 誰もが安心できる地域医療の確保

子どもから高齢者までが、必要な医療サービスを安定して受けられるよう医療提供や連携の体制をつくるとともに、地域全体で地域医療を守ります。

- ④ 地域医療連携体制の強化
- ⑤ 救急医療体制の充実
- ⑥ 啓発・情報提供の推進

中間評価で確認された**今後の取組み**

- ◆ 一次救急と二次救急の機能分担、湖南圏域休日診療所の安定的な診療体制の維持
- ◆ かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局をもつことの啓発



基本目標

3

## 最期まで安心して生活していくための支援体制づくり

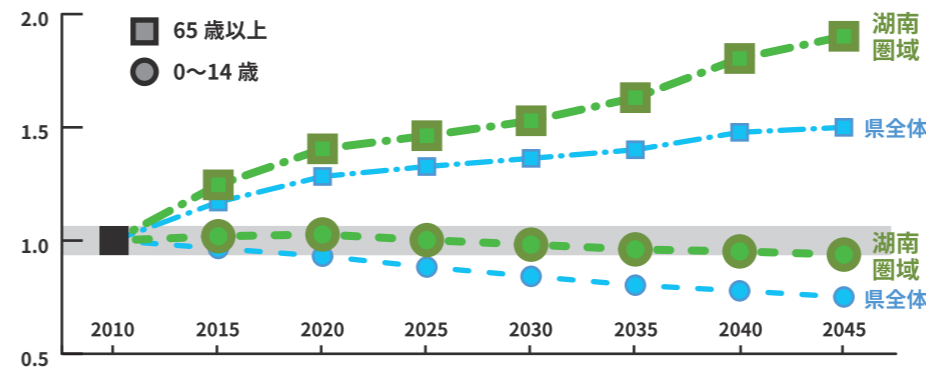
「住み慣れた地域で家族とともに療養したい」「最期は自宅で」といった希望にこたえられるよう、患者も家族も住み慣れた地域で安心して生活できる体制をつくります。

- ⑦ 在宅医療・介護連携の推進
- ⑧ 在宅看取りの推進
- ⑨ 認知症対策の推進

中間評価で確認された**今後の取組み**

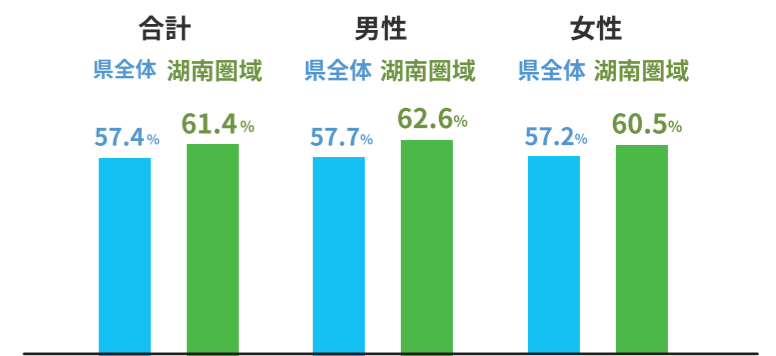
- ◆ 病床機能の分化と連携、看取りまでを含めた、高齢者だけでなく、精神、難病、障害児・者等の在宅生活を支える体制の充実、強化
- ◆ 認知症があっても安心して生活できる地域づくり

2025 年には一気に高齢化が進むことが予測されています。一方で子育て世代の減少割合は他圏域に比べて小さく、小児救急医療体制構築と病床機能分化の両立が求められています。



2010 年の人口を 1.0 としたときの年別人口推移  
(2015 年までは国勢調査より、2020 年以降は社人研の推計より)

特に働き盛り世代の多い湖南圏域は糖尿病などの健康リスクが県内平均よりも高く、将来を意識した主体的な 1 次予防の推進が課題です。



平成 27 年度 特定健診における糖尿病予備群（HbA1c 有所見者数）の割合  
(国保連データ、滋賀県版国民健康保険保健指導事業管理ガイドラインより)